高校生とその父母の自己認知の関係に関する分析の試み（1）
——沖縄の場合——

本　田　時　雄

A Study on Self Cognition of Adolescents and their Parents in Okinawa

Tokio Honda

はじめに

青年とその父母の関係について、ペアデータの収集を1995年から始め、分析を1997年から開始してきて、解析法に関して一応の目安がついた。しかし個々の家族に関しての分析法はまだ見つかっていない。したがって本論文は、その新しい解析法を模索するための試みである。

目的

本田ら（2000, 2001）は、青年とその両親の「家庭の雰囲気の関係」における世代間伝達や時代的変化について分析した。

今回は、「沖縄」という、ある種県内での婚姻、同じ氏族の結びつきの強い土地柄（チームT・A「地域科学」研究室 '95、1996；安藤、1998）における青年（高校生）とその父・母の関係を自己認知によって分析することを目的とする。

方法

調査回答者：子ども（沖縄の高校生、男45名、女43名；年齢：15－19歳、平均16.4歳）

父親（年齢：37－63歳、平均47.0歳）

母親（年齢：36－62歳、平均45.4歳）

調査時期：1998年9－10月

結果および考察：

1．子どもアンケート1

13－15歳（中学時代）の主として対人関係（親・教師・仲間）についての質問、15項目に5件法（あてはまる、ややあてはまる、どちらともいえない、あまりあてはまらない、あてはまらない）によって回答してもらった。それを1－5に置換し、因子分析（主成分分析およびバリマックス回転）を行った。因子負荷量.400以上の項目を採用すると、子どもは3因子が、父親と母親がともに2因子が抽出された。父親と母親の因子構造は単純構造になったが、子どもの因子構造は2項目が2つの因子に重複しており、また項目14は負荷量が.400未満だったので削除した。

付表1　アンケート1

1. 私はクラスメートから優等生だと思われていた。
2. 私はだいたい自分の方からけんかをしかけた。
3. 私と親は、価値観が似ていた。
4. 私は、親に反対されても、自分のしたいことをやった。
5. 外出するときは、たいがい親に行き先を告げていた。
6. 親は、私が誰と何をしているのか知らないことが多かった。
7. 私は、自分から進んで家の仕事を手伝った。
8. 私は、親とよく議論をした。
9. 私は、親と仲が良かった。
10. 私は、親が干渉しすぎるといつも感じていた。
11. 私は、親が私をもっと自由にさせてくれなかったことを恨んでいた。
12. 弱いものいじめに関しては、私はいじめるほうの仲間に入っていた。
13. 私は、先生達とうまくやってこれなかった。
14. もし私が生徒会役員に立候補したら、生徒の多くは私に投票してくれたであろう。
15. 親は、私を友達のように扱ってくれた。

因子名は次のとおりであった。

A）子どもの第1因子は「独立・自己主張」、第2因子は「自由・闊達」、第3因子は「自尊感情」。寄与率は第1因子が20.700％、第2因子が13.623％、第3因子が11.908％で、全体として46.231％であった。

B）父親の第1因子は「奔放」、第2因子は「親に従順」。寄与率は第1因子が26.746％、第2因子が15.090％で、全体としては41.836％であった。

表1　子どもの成分行列（アンケート1）

	成　分		
	1	2	3
CSS11	.752	-	-
CSS10	.694	-	-
CSS6	.615	-.147	-.234
CSS5	-.596	.211	-
CSS13	.587	.249	.221
CSS8	.299	.678	-.218
CSS9	-.371	.621	-.222
CSS4	.149	.547	.121
CSS7	-.277	.511	-
CSS15	-	.505	.179
CSS2	-	.197	.725
CSS1	-.202	-.155	.724
CSS12	.321	-	.470
CSS3	-.399	.382	.419
固有値	2.898	1.907	1.667
寄与率	20.700	13.623	11.908（46.231）
α	.696	.527	.458

注）「-」は |0.1| 未満

表2　父兄の成分行列（アンケート1）

	成　分	
	1	2
FSS13	.757	-.165
FSS4	.694	.106
FSS2	.672	.176
FSS6	.612	-.145
FSS8	.597	.306
FSS11	.594	-
FSS12	.591	.307
FSS10	.446	-
FSS5	-.143	.691
FSS14	.334	.680
FSS9	-.116	.669
FSS7	.102	.652
FSS15	.302	.558
FSS1	-	.465
FSS3	.258	.441
固有値	4.012	2.264
寄与率	26.746	15.090（41.836）
α	.784	.714

表3　母親の成分行列（アンケート1）

	成　分	
	1	2
MSS2	.715	.110
MSS12	.703	.117
MSS13	.612	-.124
MSS4	.591	-
MSS6	.576	-.155
MSS8	.535	.160
MSS11	.520	.278
MSS10	.520	.393
MSS5	-.155	.697
MSS9	-.104	.673
MSS3	-	.647
MSS14	.265	.557
MSS1	.118	.524
MSS15	.377	.447
MSS7	-	.400
固有値	3.606	2.172
寄与率	24.039	14.479（38.517）
α	.753	.669

C）母親の因子構造は、項目の大きさや順番こそ違っているが、第1因子、第2因子とも父親のそれと同じく「奔放」「親に従順」であった。しかし寄与率は第1因子が24.039％、第2因子14.479％で、全体として38.517％とやや低かった。

また因子的妥当性および信頼性を表すα係数は子どもの場合.7以下でかなり低かったが、父母のα係数は.7以上であった。この点や因子数が父母に比して多かったのは、子どもは親よりも回想する時期が近くヴィヴィットに想起したためかもしれない。また父母の自己認知の因子構造が他の調査結果（本田、未発表）と違って極めて類似していたのは、沖縄という地域の特性と考えられる。

2. アンケート2

現在の考え・価値観・人生観・生活観についての質問、56項目にアンケート1と同様に5件法によって回答してもらい、それを因子分析して、因子抽出、バリマックス回転を行った。因子負荷量.400以上の項目を採用すると、子どもは5因子、父親は3因子、母親は4因子が抽出された。子どもの因子分析では56項目中32項目が負荷量.400未満で削除された。父親や母親の分析では、削除された項目は9項目と6項目であった。

付表2　アンケート2

1. 日本人は目上の人に従うことを重視しすぎる。
2. 子どもたちに、目上の人を尊敬し従うことを教えるのは、大切な教育である。
3. しつけの良い子は、一度注意されたことを二度と繰り返さない。
4. 青少年の犯罪を増やさないためには、若者の犯罪にもっと厳しい罰を与えるべきである。

5. 親に対して、愛情や感謝、尊敬の気持ちを持たないような人間は最低である。
6. 国家に対して愛国心と忠誠心を持つことは、国民の重要な義務である。
7. 若者が順調に発達するためには、大人の十分な理解と忍耐が必要である。
8. 若者は時々反抗的な考えを抱くが、『大人』になるためには改めるべきである。
9. 親が子どもをあまりかまいすぎると、その子は社会の中でうまくやっていけないかもしれない。
10. 目上の人達の都合だけで決められたと思う規則には、違反してもかまわない。
11. 子どもが親に口答えすることを許すべきではない。さもないとその子は親を尊敬しなくなるだろう。
12. 弱者が不当な扱いを受けていたら、まともな人間なら黙っているべきではない。
13. 貧しい人々に同情する必要はない。なぜなら人生に勝負はつきものだから。
14. 誰でも平等なチャンスと平等な報酬を与えられるべきである。
15. 人々は、必要なものを手に入れる権利を平等に持っている。
16. 勤勉で有能な人間は、ほかの人達よりも金持ちになる資格がある。
17. 性差別は、現実にはなかなかなくならない。
18. 我々は人間として全て平等でなければならない。
19. グループで何かするときには、仲良くすることよりも、目的を達成することの方が大切だ。
20. 平等な集団は、上下関係が明確な集団よりも仕事の能率が低い。
21. 人は、強制されないと働かない場合が多い。
22. 社会や経済のしくみを変えれば貧困がなくなると思うのは馬鹿げている。
23. 小さな集団はリーダーはいらない。全員が平等であったほうがいい。
24. 日本には人種差別があると主張するのは間違っている。
25. 家族の期待を裏切るのは利己的である。
26. 周囲に協調しないでトラブルを起こす人は、尊敬されない。
27. みんながやりたがっていることに反対を唱えられる人は、変わり者である。
28. 理想、繊細な感性、自己認識などの豊かな内面世界こそ、真のやすらぎをもたらす。
29. 他人の忠告から学ぶことは多いので、行動する前に、なるべく人に相談するべきである。
30. 自分一人の力と努力で自分の生活を大切にできることはすばらしい。
31. 人生のスタートは親から与えられるが、どんな人間になるかは本人の努力で決まる。
32. 孤独を恐れない人は、人々から賞賛される。
33. 周囲の人々のおかげで、人生に喜びを見いだすことができる。
34. 個人主義者は最良の人生を切り開くことができる。
35. 自分の内面は、見つめるにもっとも値するテーマである。
36. 黙想は、人間の最高の活動である。
37. 私には、本当に理解しあえる人がほとんどいないようだ。
38. 私は、他人から信頼されているほうだと思う。
39. 私のことを真剣に考えてくれる人もいるだろうと思う。
40. 自分のしていることの意味が分からなくなることがある。
41. 私は、社会の中で取るに足らない小さな存在のように思う。
42. 私は、無用な人間だと思う。
43. 他人は何を考えているか分からず、信頼できないように思う。
44. 私は、人付き合いのいいほうである。
45. 自分は欠点だらけの人間だと思う。
46. 心を打ち明けて話しができる人は、私にはあまりいないように思う。
47. たまらなく自分が嫌になることがある。

48. 現代社会は、生活しづらいと思う。
49. 殺伐とした社会に息苦しさを感じる。
50. 私の生き方は、心から納得できるものである。
51. 私の毎日は、実に『のびのび』しているように思う。
52. 何の目標もなく、日々を暮らしているような気がする。
53. 私は、もし生まれ変われることができたら、今度は別の人になりたいと思う。
54. 『自分なりに一生懸命生きていて満足だ』と思う。
55. 世間で起こっていることに、ほとんど関心がない。
56. わりあいマイペースで毎日を過ごしていると思う。

子どもの第1因子（9項目）は「虚無感」、第2因子（8項目）は「ナイーブ」、第3因子（8項目）は「権威的」、第4因子（4項目）は「人生謳歌」、第5因子（3項目）は「閉塞感」であった。父親の第1因子（29項目）は「功利的」、第2因子（13項目）は「無力感」、第3因子（5項目）

表4　子どもの成分行列（アンケート2）

	成　分				
	1	2	3	4	5
CSS2 46	.794	-	-	-	.102
CSS2 42	.669	-.159	.200	-	.163
CSS2 37	.649	-	.203	-	-
CSS2 43	.624	-.236	.250	-	.268
CSS2 45	.607	.125	-.161	-	.287
CSS2 20	.508	.194	-	-	-.287
CSS2 41	.436	-	-	-	.425
CSS2 47	.421	.398	-.215	-.392	.139
CSS2 21	.400	.363	-	-	-
CSS2 39	-	.716	-.194	-	-
CSS2 33	-	.580	-	-	-
CSS2 7	-	.539	.162	-	.296
CSS2 35	-.109	.530	.249	-	.160
CSS2 15	-	.524	-	-	.170
CSS2 38	-.111	.521	.206	.257	-
CSS2 2	.213	.496	-	.240	-.434
CSS2 40	.387	.475	-	-.393	-
CSS2 27	.144	-	.632	-	-
CSS2 5	-	.220	.590	-	-.217
CSS2 26	-	.112	.583	-	.305
CSS2 8	.244	.203	.572	-	-.297
CSS2 11	-	-	.549	.160	-
CSS2 19	.108	-.166	.501	.138	.223
CSS2 23	.178	-.123	.454	.402	.143
CSS2 28	-	.312	.441	.181	-
CSS2 54	-	.129	-	.821	-
CSS2 50	-	.138	-	.798	-.171
CSS2 51	-.161	.124	-	.696	.134
CSS2 32	.138	-	.322	.459	.257
CSS2 48	.124	-	-	-	.719
CSS2 49	.241	-	-	.230	.627
CSS2 1	.105	.200	-.419	-	.545
固有値	3.549	3.232	2.872	2.805	2.451
寄与率	11.090	10.098	8.978	8.766	7.660（46.590）
α	.781	.687	.735	.606	

表5　父親の成分行列（アンケート2）

	成分		
	1	2	3
FSS2 28	.722	.141	-
FSS2 3	.721	.176	.114
FSS2 27	.702	-	-
FSS2 25	.698	.136	.316
FSS2 19	.688	.168	-.140
FSS2 16	.666	.162	.102
FSS2 13	.662	.295	.107
FSS2 30	.649	-	-
FSS2 6	.646	-	.199
FSS2 7	.636	-	-
FSS2 22	.623	.117	-
FSS2 29	.604	-	.125
FSS2 11	.599	.313	.217
FSS2 32	.594	.287	.160
FSS2 34	.577	.373	.122
FSS2 10	.565	.219	.166
FSS2 21	.556	.264	-
FSS2 24	.551	-	.233
FSS2 26	.547	-	.118
FSS2 8	.543	-	.442
FSS2 23	.537	.417	-
FSS2 17	.530	-	-
FSS2 20	.503	.194	-
FSS2 33	.482	-.265	.445
FSS2 1	.475	.104	.117
FSS2 15	.451	.127	-
FSS2 14	.449	-	.155
FSS2 5	.442	-	.406
FSS2 4	.434	-	.226
FSS2 41	-	.757	-
FSS2 46	-	.738	-.208
FSS2 42	.233	.737	.237
FSS2 37	.128	.731	-.153
FSS2 47	.110	.725	-
FSS2 52	.228	.707	-
FSS2 43	.187	.694	.155
FSS2 48	-	.672	-
FSS2 49	.107	.667	.205
FSS2 55	.126	.630	.354
FSS2 45	-	.622	-
FSS2 53	.122	.591	-
FSS2 36	.436	.477	.203
FSS2 44	.129	-	.765
FSS2 50	.236	.129	.726
FSS2 38	.114	-	.689
FSS2 54	-	-	.663
FSS2 51	.366	-	.503
固有値	10.647	6.994	3.719
寄与率	22.654	14.880	7.913（45.447）
α	.940	.910	.780

表6　母親の成分行列（アンケート2）

	成分			
	1	2	3	4
MSS2 47	.832	-	-	-
MSS2 46	.789	.288	-.164	-
MSS2 45	.786	-	.129	-
MSS2 41	.751	.172	-	.111
MSS2 52	.746	.159	.137	-
MSS2 42	.736	.379	-	.164
MSS2 49	.709	.226	.163	.136
MSS2 40	.704	.138	.180	.114
MSS2 48	.653	.272	-	.153
MSS2 43	.653	.377	-.153	.137
MSS2 37	.606	.449	-	-
MSS2 53	.575	-	.104	-
MSS2 20	.302	.711	-	.131
MSS2 21	.145	.669	-	.151
MSS2 25	.196	.642	.127	.223
MSS2 55	.373	.613	.212	.109
MSS2 11	.228	.605	.141	.240
MSS2 13	.104	.600	.332	-
MSS2 22	.269	.565	.114	-
MSS2 16	.195	.564	.173	.100
MSS2 8	.210	.521	-	.447
MSS2 19	.155	.513	.329	-
MSS2 34	.344	.505	.379	-
MSS2 26	-	.499	-	.429
MSS2 27	-	.480	.181	.317
MSS2 10	-	.475	.320	.338
MSS2 32	-	.437	.327	-
MSS2 51	-	.151	.808	.126
MSS2 50	-	.265	.717	.158
MSS2 39	-	-	.630	.316
MSS2 35	.157	.164	.622	-
MSS2 56	-	.110	.619	.112
MSS2 54	-.105	.260	.586	-
MSS2 38	-	-	.579	.403
MSS2 44	.229	-	.530	.199
MSS2 36	.158	.384	.522	-
MSS2 28	-	.345	.504	-
MSS2 15	-	-	.490	-
MSS2 1	.125	.247	.436	-
MSS2 9	.113	.256	-.114	.658
MSS2 33	-	-	.154	.642
MSS2 4	.288	.161	-.142	.613
MSS2 31	.137	-.267	.446	.535
MSS2 12	-.105	.212	.123	.532
MSS2 29	.151	.278	.191	.518
MSS2 7	-	-	.358	.495
MSS2 5	.317	.130	-	.481
MSS2 2	.319	-.106	-	.474
MSS2 24	.217	.233	.163	.438
MSS2 14	-	.164	.156	.421
固有値	7.381	6.507	5.669	4.393
寄与率	14.761	13.014	11.338	8.795（47.909）
α	.930	.899	.864	.7924

は子どもの第4因子に類似しており「楽しさ・楽観」因子と命名した。母親の第1因子（12項目）は、ほとんどの項目が父親の第2因子と重複し「無力感」、第2因子（15項目）は父親の第1因子に含まれる項目が多く「功利的」、第3因子（12項目）は父親の第3因子を含み「人生満足」、第4因子（11項目）は「保守的」と命名した。

寄与率は子どもの場合第1因子～第5因子まで、11.090％～7.660％で全体として46.590％であった。父親の場合第1因子～第3因子まで22.654％～7.913％で全体が45.447％であった。母親の場合第1因子～第4因子まで14.761％～8.795％で、全体としては47.909％であった。

因子的妥当性および信頼性のα係数は、子どもの場合が.61～.78、父では.78～.94、母では.79～.93でかなり高いものが多かった。

次に、現在の子どもの各因子がどのように中学時代の子どもの因子、中学時代および現在の父や母の因子から影響を受けているかを調べるために、以下のような変数を用いて、重回帰分析（ステップワイズ法、$p<.05$）を行った。

投入する独立変数は

独立変数：現在の子どもの第1因子～第5因子

従属変数：中学時代の子ども・父・母のそれぞれ3因子、2因子および2因子、現在の父・母の3因子および4因子

結果は次のようであった：

①第1因子（虚無感）は、父親の中学時代の「奔放」因子と母親の現在の「無力感」が$\beta=.291$と.290、$R^2=.188$（調整済み$R^2=.169$）、p=.0001であった。父の中学時代の「奔放」さに憧れながら現実には母の「無力感」に影響されているのであろう。

②第2因子（ナイーブ）は、子どもの中学時代の「自由・闊達」因子のみが$\beta=.272$、$R^2=.074$（調整済み$R^2=.063$）、$p=.010$であった。中学時代の「自由・闊達」さは現在の「ナイーブ」さに少し影響を与えているようである。

③第3因子（権威的）は、条件に合うような変数は見つからなかった。

④第4因子（人生謳歌）は、中学時代の父親の「親に従順」因子が$\beta=.244$、$R^2=.060$（調整済み$R^2=.049$）、$p<.022$であった。中学時代「親に従順」だった父は、子どもに人生を謳歌させているのであろう。

⑤第5因子（閉塞感）は、父親の中学時代の「奔放」因子が$\beta=.493$、$R^2=.243$（調整済み$R^2=.234$）、$p<.0001$であった。生き辛さを感じている子どもは、第1因子と同様に父親の中学時代の「奔放」さに憧れているのであろうか。

子どもの現在の自己認知は、父親の中学時代の自己認知からの影響がかなりみられたが、母親からの影響は皆無であった。また当然ではあるが、自分の中学時代の自己認知からも影響されていた。現在の父母の自己認知からの影響は母親からのみであった。これは、子どもの中学時代が思春期で、親を避け，わずかに母親と接触するのであろうか。

さらに子どもの中学時代の自己認知を、父・母の中学時代および現在の自己認知によって説明しようとすると、中学時代の子どもの自己認知は父母の中学時代の自己認知だけに関係し、現在の自己認知には関係なかった。「独立・自己主張」因子は、父親の「奔放」因子と母親の「親に従順」因子がそれぞれ$\beta=.766$、-.162、$R^2=.602$（調整済み$R^2=.592$）、$p<.0001$であった。すなわち独立的で自己主張的な子どもは奔放な父親からプラスの影響を、親に従順な母親から負の影響を受けたと思われる。「自由・闊達」因子は、父親の「奔放」因子によって説明された。

表7　子どもの現在の自己認知（従属変数）と他の自己認知の関係

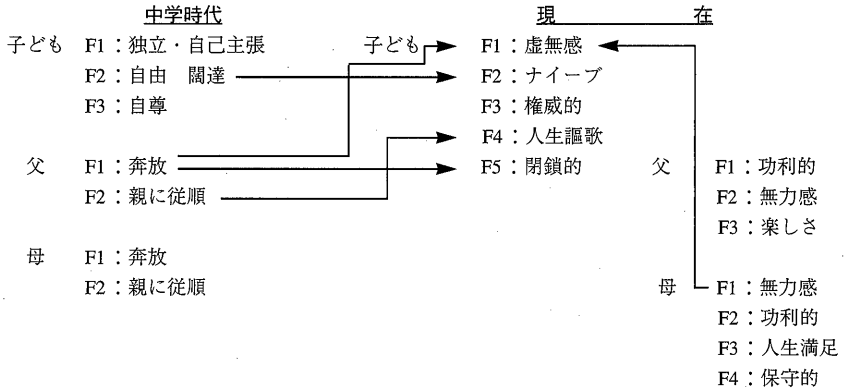
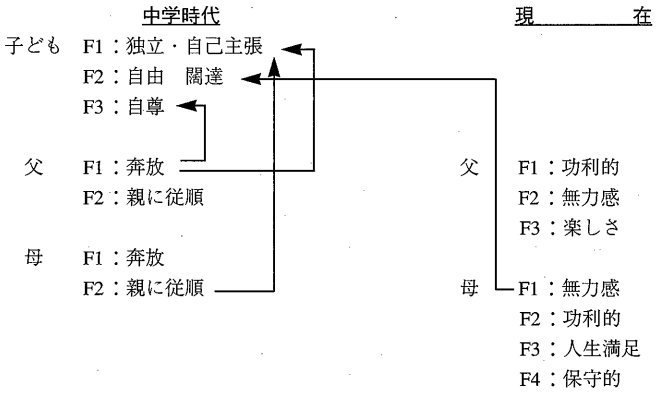


表8　子どもの中学時代の自己認知（従属変数）と他の自己認知の関係



β＝.225、R^2＝.051（調整済みR^2＝.040）、p＝.035。自由闊達な子どもは「自尊」因子は、「奔放」因子と同様に、父親の「奔放」因子が説明変数となっていた。β＝.354、R^2＝.125（調整済みR^2＝.115）、p＜.0001。自尊感情の強い子どもは、奔放な父親によって影響されたようである。

3．a）父親の現在の自己認知を従属変数として、説明変数として中学時代の子どもの3因子および父母の、それぞれの2因子、そして現在の母（妻）の4因子を用いての重回帰分析に関する結果は次のようであった。

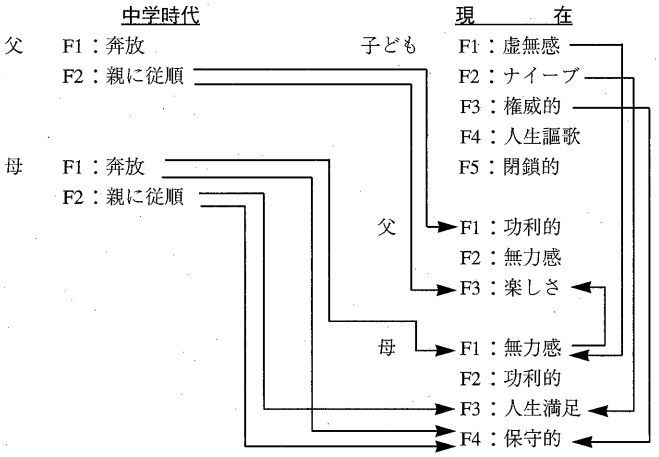
父親の現在の自己認知に関係のあるのは中学時代の自分と現在の母親（妻）で、子どもや中学時代の母親（妻）とは無関係であった。第1因子（功利的）は中学時代の「親に従順」因子のみが説明変数であった。β＝.339、R^2＝.115（調整済みR^2＝.105）、p＜.001。中学時代から親に従順であることが人生をうまくやっていけると思っていたのだろうか。第2因子（無力感）は条件に適合する説明変数が見つからなかった。第3因子（楽しさ・楽観）は説明変数が2つあり、中学時代の自分の「親に従順」因子と現在の母（妻）の「無力感」因子で、β＝.508、-.197、R^2＝.295（調整済みR^2＝.278）、p＜.001。すなわち楽観的な父は、中学時代に親に従順で、無気力でない妻から影響されているのであろう。

b）母親の現在の自己認知を従属変数とし、説明変数として、中学時代の子どもの3因子およ

び父母の、それぞれの2因子、そして現在の父（夫）の4因子を用いての重回帰分析に関する結果は次のようであった。この解析では、父親（夫）が中学時代も現在も関係なかった。

第1因子（無力感）は、説明変数が母親の中学時代の「奔放」因子と子どもの現在の「虚無感」で、β＝.462、.279、R^2＝.316（調整済みR^2＝.300）、p＜.0001であった。無気力な母親は、中学時代の自分を奔放だと回想し、現在の虚無的な子どもから影響を受けているようである。第2因子（功利的）に関しては、適合する説明変数は見つからなかった。第3因子（人生満足）の説明因子は、中学時代の自分の「親に依存」因子と子どもの現在の「ナイーブ」因子であった。β＝.564、.215、R^2＝.371（調整済みR^2＝.356）、p＜.001。人生をエンジョイしている母親は、中学時代に親に従順で、現在ナイーブな子どもに影響されている。第4因子（保守的）は3つの説明因子があり、中学時代の自分の「親に従順」因子と「奔放」因子、子どもの現在の「権威的因子」であった。β＝.360、.300、191、R^2＝.305（調整済みR^2＝.280）、p＜.001。中学時代の親に従順であり、かつ奔放である自分と、人生を謳歌している現在の子どもに、保守的な母親は影響されていると思われる。

表9　父母の現在の自己認知（従属変数）と他の自己認知の関係



文　献

安藤由美　1998　激動の沖縄を生きた人びと―ライフコースのコーホート分析―　早稲田大学　人間総合研究センター

安藤由美　平成12年　沖縄におけるライフコースの出生コーホート比較研究（平成9，40年度科学研究費補助金）研究成果報告書

本田時雄・大熊保彦　1998　ペアデータ分析の試み（1）文教大学人間科学研究　第20号　113－122

本田時雄・岡林秀樹　2000　ペアデータ分析の試み（2）―共分散構造分析を用いた世代間伝達の事例研究―文教大学人間科学研究　第22号　219－226

本田時雄・岡林秀樹　2001　青年と両親の家庭雰囲気の関係における時代的変化―多母集団同時分析を用いて―　文教大学人間科学研究　第23号　159－165

チームT・A「地球科学」研究室‘95　1996　新琉球―地球文化論グラフティー　ボーダーインク

柳井晴夫　1994　多変量データ解析法―理論と応用―　朝倉書店